

会議の概要

平成29年度 第7回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 太玉中学校学校運営協議会

日時 平成29年12月12日(火) 18:30～20:30

場所 改善センター2階 農事研修室

進行…事務局

1 開会の言葉

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 武田伸一

2 教育長あいさつ

大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

・まずは、おおたま・オータム・フェスタの御礼を申し上げる。実施後に行ったアンケートの集計結果がまとまり、その中身をみると、内容や運営方法等の改善事項はあるが、全体として大変良かったという反省をいただいている。後で詳しく説明させていただく。

反省を生かして来年どのように実施するかについて、調整会議を持った。その中で、来年実施予定の村民運動会と一本化して、一つの行事にして実施するという方向付けをいただいた。そのことについてご理解をお願いしたい。

・次に、12月8日に東京で行われた「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムについての概要をお話しさせていただきたい。

今の子どもたちが、20年、30年後どんな世界でどう生きていくのか。その子どもたちが豊かな幸せな人生を過ごすために教育はどうあるべきか、今いろいろな議論がなされている。その中でカギになるのが、「社会に開かれた教育課程」である。教育課程というのは学校がつくる総合的な教育計画を指す。それを社会に開く、学校を開くということを、学校のみならず、CS委員や保護者、地域の皆様にご理解いただくことが大切と考える。

また、学校の使命の一つが、子どもたちの社会性を育むことで、地域の学びの中で授業をつくっていくという考え方から開かれた教育課程というものが見えてくるのではないか。そのために大人の学びこそ学校改革のカギとなっていくだろう。その際、学校は地域の教室であり、授業は地域の文化であるという考え方、こういったことを実践している地区の事例の紹介が大変参考になった。

今日は大玉村教育フォーラムについての協議が中心となるが「社会に開かれた教育課程」をご理解いただいた上で、フォーラムにつなげてほしいと思っている。

3 会長あいさつ

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会 会長 伊藤 和弥

お寒い中お集まりくださりましてありがとうございます。11月7日には盛岡でのフォーラムに参加し、その後、12月8日には東京のフォーラムに参加してきた。どちらも大変勉強になっ

た。後日その内容について、私なりにまとめて皆様にお示ししたいと思っている。

大玉のコミュニティ・スクールがいかに独自性を持てるかということを考えさせられるフォーラムだった。今後も大玉なりの独自性のあるCSを作っていきたいと感じた。本日も盛りだくさんの内容があるので、皆様のご協力で慎重審議よろしくをお願いします。

(教育長退室)

4 諸連絡 本日の日程・内容について

事務局

5 協議 座長 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤みづほ

(1) 平成29年度 おおたま・オータム・フェスタのアンケート結果について

- ・佐藤勇人委員より説明
- ・アンケートは児童、生徒、教職員、ボランティア、保護者、CS委員を対象に実施し、ほとんどの方から回答をいただいた。
- ・行事の主役である、小・中学生の意見から、「1、活動は楽しかったか。」「2、交流が図れたか。」「3、大玉のよさについて。」という項目を質問している。それに対して「そう思う」「ややそう思う」と答えたのはどれくらいか、について。

1については、90%以上、2については、87%、3については90%の児童、生徒がそう感じていると答えている。昔遊び、大名倉山登山、スコアオリエンテーリングについては、自由記述もたくさん出されていて、「大変楽しかった」という反応になっている。安達太良山登山は強風のためコースを変更した判断が良かったという意見が出ている反面、山頂に行けず残念だったという意見もあった。アートフィールドワークについては、当日だけでは完成させることができず、あとで授業の中で完成させたなど、一日の行事として行うには難しさがあるのではと思った。

保護者や運営する側の意見でも、児童、生徒と同じような結果となっている。

全体の自由記述から主なものを抜粋する。

- ・チームワークがすばらしかった。
 - ・今年度2回目ということで昨年よりも充実した活動ができた。
 - ・大玉村ならではの行事だった。他の市町村では見られない行事だった。
 - ・交流が十分に図られた。
 - ・思いやりの気持ちを育てる活動であったし、大玉村の自然への興味を高める活動であった。
- というような意見をいただいている。

改善点として、実施時期についての意見が多く、

- ・秋は学校内外の行事が多く、非常に厳しい日程であった。
- ・中学校は中間テストと新人戦があり、スポ少の大会との重なりもあった。

などの意見があった。

安達太良山登山については、

- ・土曜日の非常に混雑する時に200人規模の登山はいかがなものか。
- ・天候によって大きく左右される行事は、検討が必要である。

ということも出ていた。

その他

- ・村民に対する事前PRも必要ではないか。

ということも出ていた。詳しくはアンケートを読んでもいただきたいと思います。

(座長) 開催日時、内容についての反省が多いようであったが、何かご意見があれば。

(事務局) このアンケートに基づいて、「おおたま・オータム・フェスタ」はこれからも実施していきたいと事務局としては考えている。ただし来年度については、村民運動会があるので、二つの大きな事業を同時期に実施するというのは子どもたちにとっても、学校現場にとっても負担が大きい。過日、この件について調整会議を持ち、いろいろ意見をいただいた中では、来年度については村民運動会とおおたま・オータム・フェスタを一本化して実施するという方向性が示された。ただいまのフェスタの反省もふまえながら、開催時期や方法など十分に検討して進めているということをCS委員の皆様にご承知おきいただきたい。

(会長) フェスタは大変多くの方に関わっていただき、先生方やボランティアの方々のご尽力で今回は成功裡に終わったが、安達太良登山等、危機管理についての課題もある。また、運動会と一体化した事業になった場合、事業の考え方が変わるので、CS委員会はどうかかわっていくのか、どのようにお手伝いしていけばいいのか、これから話し合っていきたい。また、アンケートについては、要約したものもあれば、なお分かりやすいと思う。

(2) 第9回教育フォーラムについて

① 第9回教育フォーラム開催計画(案) 審議

・事務局より説明

(委員) 「地域ぐるみで何ができるか」ということを話し合うことになっているが、自分自身について言えば、地域を巻き込んでという大きなテーマに取り組む余裕がないのが現状。「自分の子育てを見直してみませんか」というような小さな目線で考えてもいいのではないか。

(委員) 小グループでの話し合いでは進行役をやるようになると思うが、テーマが漠然としているとやりにくい。もっと具体的な分かりやすいタイトルだといいかと思う。

(会長) 私が参加してきたフォーラムで出ていた言葉を借りて「子どもたちがつくる20年後の大玉」というのはどうか。具体的な話題としては入り込みやすいのではないか。

(委員) 小グループの話し合いについて、参加した人全員が話し合いに参加しなければならないというのはどうか。傍観してもいいというやり方もあっていいのではないか。はじめてこういう場に参加する人にとってはハードルが高いと感じる。

(会長) 東京のフォーラムに行った時は、グループに入らずに自由に見てまわるというフリー参加があった。

(委員) 参観だけという参加の仕方に賛成します。去年初めて参加して、たくさんの方々が熱い思いをもって、大玉の教育について考えてくださっていることがよく分かった。そのことをもっとたくさんの人に知って欲しいと思った。そのためにもその場の雰囲気を感じていただだけでもいいのではないかと思います。タイトルについては、先ほど会長さんがおっしゃったように、これからの大玉の教育の方向性が見えてくるようなものが良いと思う。

(委員) 「社会に開かれた教育課程」という新学習指導要領の理念は事前にそのことについての説明を受け学習しないと理解しにくいと思う。これからの大玉はどうなっていくべきかという方向で話をすれば、地域の方も話しやすいかと思う。

(事務局) 学校や地域はどういう方向に向かっていけばいいのか、第 1 部でコーディネーターをお願いする先生に示していただいて、それを第 2 部のヒントにしてすすめていくようになる。

(座長) タイトルについては、より多くの人に参加を募るために大事なもののなので、もう少し分かりやすく。また、フォーラムの参加者は、大玉の教育が何をを目指すのか、教えてほしいという気持ちで参加する方もいるのではないかな。

(事務局) 大玉で今までやってきたものを精選させたり、進化させたりすることで国や県が目指す方向に向かっていけるということを皆さんに再認識していただければいいのかなと考えている。

(会長) 10 人程度の小グループとなっているが、10 人の意見をまとめるのは難しい。1 グループ 6~8 人程度におさえて、その他はフリーでの参観でもいいのではないかな。敷居を低くするという意味でもいいのかなと思う。

(座長) グループ分けされていても発言するしないは自由でいいのではないかな。はじめからグループに入らないというのではなく、フリートークに参加するかしないかも含めて自由に参加してよいことにすればいいのではないかな。

(事務局) どういった参加の形にするのかはいったん事務局に預けていただいてよろしいかな。

(座長) 一番はどう参加者を募るかという問題である。何かいいアイデアはあるかな。

(委員) 自分自身、フォーラムに参加した初めてのきっかけは中学校の役員としてで、その後 C S 委員として参加した。役員になっていなければ参加していなかったと思う。自分が子育てしている時期にこのような話が聞ければよかったなと思っている。参加のきっかけとするためにも、タイトルはかたぐるしくないものがいいと思う。

(委員) タイトルはもっと身近な話題で、例えば今の親たちが抱えている子育ての悩みのことなどにしたほうが関心を持つし、意見も出やすいかなと思う。今の問題をどうするかを話していけば、「これからの時代に」という言葉にもつながっていくと思う。

(委員) フェスタにしてもフォーラムにしても、大変よい行事が継続されているので、村民に届くように広報していただきたいと思う。先日「大玉村で残していきたいものはありますか。」というチラシが配付されていた。村の行事などを伝承していくためにも住民同士のつながりは大事なので、ぜひ多くの機会を作って呼びかけていただきたいと思う。

(事務局) 昨年同様 P T A の役員の方々に共催という形でご協力いただいて、地域の方へは各種団体様へご案内を出す、広報等で呼びかけるなどを考えている。C S 委員の皆様にはそれぞれつながりのあるところへ呼びかけをお願いしたいと思っている。

(3) 各園・各校からの報告(学校・園の様子、月の予定等)

① 大山幼稚園

- ・ 11 月末に発表会が行われた。その後フェスタでお世話になった方々をご招待して、発表会での演目をあらためて見ていただいた。ボランティアの皆様には大変喜んでいただいた。
- ・ 明日、直売所のオープンでのアトラクションで年長児が花笠音頭を披露する。お時間のある方はぜひ足を運ばれてご覧になっていただければと思う。

② 玉井幼稚園

- ・ 行事関係は大山幼稚園とほぼ同じ。
- ・ 先週の金曜日に年長児が小学校 1 年生に招待されて、小学校の教室で一緒に遊んでも

らった。子どもたちは初め少し緊張気味だったが、たいへん楽しく過ごしてきたようで、「今度は一年生を招待したい」という声も聞かれた。

- ・本日の雪は子どもたちにとっては最高の遊び道具となり、外で元気に遊ぶ姿があった。こういった機会を逃さず、いろいろな経験をさせていきたい。
- ・本日インフルエンザが年少児で1名発生した。うがい手洗いの徹底と家庭への呼びかけもしていきたい。
- ・今週末お買物体験ということで、年長児が園外保育に出かける。ボランティアさんにお世話になり実施する予定となっている。

③ 大山小学校

- ・11月20日のオープンスクール及び、学校運営協議会ではお世話になった。教職員にとっても良い経験となった。
- ・2学期の大きな行事もほぼ終わり、個別懇談も本日で終了した。個別懇談中には5,6年生がチャレンジタイムを行った。早く帰って漫然と家で過ごすのではなく、少しでも時間を生かして学習する機会とした。ボランティアさんにもお世話になり、算数科の復習をした。
- ・小学校では感染症関係はまだ発生していないが、気を付けていきたい。
- ・12月16日(土)11:00から直売所のオープンでのイベントで合唱部が出ることになっている。是非お出かけになり子どもたちの姿を見ていただきたいと思う。

④ 玉井小学校

- ・11月の学習発表会では子どもたちが成長したという成果はもちろん、子どもたちとともに、教員達も大変満足していることに、私自身大変うれしく思っている。それだけ教師が思いを込めて指導したのだなと感じた。
- ・自己管理能力について重点をおいて冬休みの指導を進めている。特にスマートフォン、タブレット等の使用について、親の管理の仕方、子どもの自己管理両面から指導したいと考えている。
- ・3学期から日課表を少し変更するために検討中である。まとまった休み時間がなく、子どもたちが自分たちで考え行動するチャンスがなかったり、思い切り遊べていない。運動能力向上にも大変影響している。遊びの中でも子どもが自主性を生かせるような時間を作れるようにしていきたい。

⑤ 大玉中学校

- ・11月上旬に1年生がそば打ち体験をした。じんだら会を中心にした15名以上のボランティアに来ていただき実施した。キャリア教育の一環で、地域の方にお世話になりながら体験活動を充実させていきたいので、これからもよろしくお願いします。
- ・今週末台湾の姉妹校に2年生35名とともに4日間行くことになっている。交流を深めてきたいと思っている。
- ・17日にあだたらの里直売所のオープンイベントで吹奏楽部が演奏を披露する。是非お出かけになっていただきたい。

(座長) 姉妹校との交流について、台湾からも来る予定があるのか。

(委員) 2月に台湾の方々が来る予定であったが、都合がつかず今年は来ないことになった。

今後はホストファミリーを募って交流していけるように徐々に進められている。

(4) その他

① 地域と共にある学校づくり推進フォーラム（東京会場） 事務局より報告

- ・CSが導入されている地域で育ってきた子どもたちが今どんな思いでいるのかを語るために、大学生が4人招かれていた。CSが自分たちの成長に大きな力を与えてくれる仕組みだったことをそれぞれの体験談から語ってくれた。
- ・地域の人がやってくれていた放課後のパソコン教室で、自分の興味を追究することができ、その後の進路に影響を受けたこと。
- ・地域の人たちとあいさつを交わす中で、安心感を持ち自分に自信を持つことができたこと。
- ・地域の人たちとの学習会に参加することで様々な事を学んだ経験から、今度は自分が教える立場になって地域に貢献していきたいという目標を持つことができた。
- ・小さい頃から見てくれている地域の人たちが、自分の成長を見守ってくれている、応援してくれていることを感じて自分の頑張りの源になっている。
- ・大玉村の教育フォーラムでも、中学校までCSの仕組みの中で育った高校生に出てもらって、おおたま学園で学んだことを語ってもらえればと期待し準備を進めているところである。

伊藤会長より報告

- ・東京でのフォーラムでは、プチ熟議に参加させていただいた。これからCSを導入するところや、導入して間もない地域の方々が多かったためか、CSはこうあるべきというような話が中心となっていた。それぞれ地域性に即したCSでなければ生きた活動にはなっていないと思う。我々も試行錯誤しながら積み重ねてきた実績を自分たちの言葉で語れるような、大玉村なりのCSを作っていきたいと思った。

6 その他

7 閉会の言葉

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 武田 伸一



フォーラムの内容、運営方法などについて、全員で意見を出し合いました。